

## 令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨に伴う災害に対する先遣隊活動報告（石川県）

令和7年8月12日(火)

活動隊員：酒井明子、花房八智代

### 1. 活動日時

令和7年8月12日(火)5:30-21:00

### 2. 活動場所

珠洲市：珠洲市役所、正院地区、宝立地区、大谷地区

### 3. 被害状況および避難所状況

令和7年8月6日（水）前線を伴った低気圧が日本海側にあり、石川県では大雨となり、珠洲市内3か所（宝立、大谷、上黒丸）で避難所が設置された。翌7日（木）午前4時47分、石川県に線状降水帯が発生し、24時間降水量が300mmを超える記録的な大雨となった。この大雨の影響により、大谷地区では、浄水場の取水口が土砂で埋まり、断水状況となった。更に10日（日）には、珠洲市内すべての地区（10地区）に避難所が設置された。珠洲市内の応急仮設住宅では、3か所（上戸小学校仮設住宅、宝立見附ドーム仮設住宅、蛸島第4仮設住宅）が、床下浸水となるなど、被害が拡大した。11日（月）夜から12日（火）にかけて、更に大雨による土砂災害などの危険が高まることが予想されることから、16時、市内11か所の避難所開設を決定した。その後、21時30分には、大雨、洪水、高潮、土砂災害、雷注意報が発令された。

### 4. 天候

雨 最高気温25℃ 最低気温19℃

### 5. 活動の実際

#### 5:30 福井県坂井市丸岡 IC 発

・珠洲市では、8月6日からの雨量が548mm（通常8月の3倍の雨量）となり、かなり広範囲で土砂災害が発生している恐れがある。

・早朝5時に七尾市中島町小牧付近の国道249号線が30m崩落し、車3台が転落する事故が発生した。

・珠洲市への走行中、能登町の珠洲道路では、国道全体を埋め尽くす土砂災害が発生しており、迂回路を通過しながら通行した。昨年の地震後、道路の補修はされているが、亀裂や陥没の跡は残っている。表面的には、危険個所を確認することは困難である。

#### 8:40 珠洲市内到着

##### ●正院地区の被害状況確認

地震と豪雨災害で2度の自宅被害に遭い、自宅横は川の氾濫、自宅裏は土砂災害の危険のある自宅を訪問した。昨日の大雨により、夜間30分で川が溢水し、自宅前や畑に泥水が流れ込んだため、住民は、朝から泥除けを行っていた。橋には流木が引っかかっており、夜間の被害の跡が残っていた。何度も災害による被害を受けてきたため、疲れた表情を見せながらも、納屋の再建や自宅片付けなどを行っていた。応急修理などに期限があることや作業が大幅に遅れていることを心配しながら、仮設住宅と自宅を行き来する日々を送っている。溢水を防ぐための土嚢の確認したところ、自宅保管されており、備えはなされていた。

9:30 ●ささえ愛センターにて臨時情報共有会議（被災者見守り相談支援事業に係る各団体集合）

- ・通行止め箇所。訪問時、危険と考えられる箇所。
- ・避難所開設場所と人数（11日夜45名）
- ・避難所の被害状況。避難所の物資。
- ・応急仮設住宅浸水状況（見附ドーム+上戸=73か所）。
- ・被害が確認された複数の自宅の住民状況。

上記について、各団体で情報共有し、本日の活動予定を検討した。ただ、本日は、大雨警報や土砂災害警戒情報が発令されているため、安全第一で活動することを共通認識とし、活動は雨の状況を確認しながら行うこと、被災状況確認のための電話は雨が止んだ段階で実施することにした。

11:00 ●とうほうの里（認知症対応型通所介護）被害状況確認

・珠洲市のグループホーム「とうほうの里」は、昨年6月上旬、入所者を避難先から呼び戻して再開した。施設は、昨年の地震と豪雨災害で被害を受けていたが、先週からの大雨により、施設横の川の水位が上がり、濁流が勢いよく海に流れ、更に海からの高波が川に入り込む状況となり、施設横の護岸が広範囲に渡り崩落した。駐車場の下およびビニールハウスの下の崩落が昨夜から数m進んでおり、施設の建物にも影響することが懸念される危険な状態となっていた。雨が止み次第、早急に工事に取り掛かる必要があることを施設長と共に市に連絡し、対応を待った。その後の市の職員の対応が早く、現場確認後、土嚢を積む準備に入った。今後、24時間体制で護岸の見守りがなされることや入所の方の対応も検討された。

・現在の要配慮者の現状および今後の福祉サービスのあり方について、施設長と意見交換を行った。

13:30 ●正院公民館避難所確認

- ・正院公民館長に、正院地区内の被害状況を確認した。
- ・昨夜の避難者は4名で、本日は1名である。避難者の健康状態は良好である。
- ・今後の正院地区の避難体制および個別避難計画について話し合った。

15:00 ●大谷第一団地仮設住宅周辺の確認

・大谷方面は、土砂災害の危険箇所が2か所あり、通行止めとの情報であったため、若山から大谷方面の道路の確認に回ったところ、大谷峠ルートは通行止めであったが、上黒丸ルートは、迂回路があり、通行可能となっていた。このため、上黒丸ルートで大谷方面に向かった。途中、顔見知りの住民に出会い、大谷までの道路状況を確認することができた。

・仮設住宅住民からの情報で、大谷第一団地の倉庫に浸水被害があったことがわかった。昨日、倉庫の裏に濁流が流れて浸水したため、水が流れるように側溝を掘ったが、これまでも何度も土砂が流れる被害に遭っているため、根本的な対策が必要であることについて関係者と話し合った。今後も引き続き、市やボランティアセンターが対応について検討する。

16:30 ●宝立仮設住宅（見附ドーム）の浸水状況確認

・応急仮設住宅に向かう道路は、数か所通行止めになっており、なかなか応急仮設住宅に辿り着くことができないため、周辺の民家の方にルートを確認した。

・応急仮設住宅の浸水被害は、昨年9月と同様である。応急仮設住宅の横の川の溢水により、住宅周辺に泥が堆積していた。住民は、大雨が降る度に、対策をしているようで、重機や柵や

ネットがかけられていた。

17：30 市への状況報告 活動終了

21：00 福井県坂井市丸岡 IC 着

23：14 珠洲市は、洪水警報から洪水注意報に切り替わる。

## 6. 考察

令和 6 年能登半島地震および令和 6 年能登豪雨災害により、石川県は全域に甚大な被害を受けた。特に奥能登地方においては、その後も発生する大雨により、道路の寸断や土砂災害などの被害が繰り返されている。今回の令和 7 年 8 月 6 日からの低気圧と前線による大雨では、これまでの大雨により、地盤が緩んでいる影響もあり、各所で土砂災害や道路の崩落が発生した。また、令和 6 年の能登豪雨災害時と同様に応急仮設住宅が床下浸水となった。1 週間降り続く大雨に、住民は、昨年 9 月の豪雨時の恐怖を思い出し、これ以上、被害が拡大しないことを願いながら、不安な日々を過ごしていた。

珠洲市では、昨年からの支え合い見守り・相談支援体制が整っており、複数の外部支援団体が現地に在住し、支援を継続しているため、被害状況確認や避難所開設、応急仮設住宅の訪問など大雨による対応は早かった。また、住民と外部支援者との信頼関係も形成されており、被害が懸念される住民への個別対応もスムーズになされ、問題解決に繋がっていた。特に、電話による状況確認や住民からの相談対応がタイムリーであり、困難事例は、市に繋ぎながら情報連携がスムーズに行われていた。

要配慮者の状況としては、猛暑や大雨により、応急仮設住宅や自宅に籠りがちになっており、低い介護度の高齢者が増えている。しかし、福祉的な希望があっても受け皿となる施設や福祉サービスに限界がある。今後の医療や福祉をどのように支えていくか、関係者と話し合ったが、今後が見通せない状況である。

外部支援者としては、大地震発生後、何度も繰り返される災害に対して、被災地住民や支援者の心身の状況に配慮し、地域に寄り添いながら、少子高齢化・人口減少社会の課題を共に考える姿勢が必要だと思われた。

## 7. 参考写真



施設横の川の護岸崩落状況



浸水被害のあった応急仮設住宅周辺